

モロッコ政治月報(4月)

2015年7月3日
在モロッコ大使館

4月のモロッコの政治情勢等を、当地報道を中心に以下のとおりまとめました。要人往来については末尾の一覧表をご覧ください。

なお、当政治月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

【主な出来事】

- ヴァルス仏首相のモロッコ訪問(4月9日)
- 第3回米・モロッコ戦略対話(4月9日)
- サパン仏財務相のモロッコ訪問(4月12～13日)

< 内政・政局 >

1 フェズにおけるテロ細胞解体

- (1)中央司法捜査局(BCIJ)は、フェズにおいてISILへの戦闘員の送り込み及びリクルート活動をしていたテロリストの細胞を解体した。
- (2)内務省コミュニケは、右細胞のリーダーはISILの幹部と緊密な関係があったとしている。送り込まれる戦闘員は、まずISILの訓練キャンプで様々な高性能武器操作のための集中訓練を受けると見られている。BCIJは、リクルートされた戦闘員の渡航費用として多額の資金が同細胞に提供されていたことも確認した。

2 テロ細胞構成員告訴とテロ計画の概要

- (1)3月22日に一斉摘発されたテロ細胞が2日、告訴され、その攻撃計画が部分的に明らかになった。
- (2)摘発されたテログループが標的としていたのは、政治家、軍人、治安関係者、社会主義政党関係者、アマジグ(ベルベル人)活動家、反ISIL 連合参加国の外交官、在留ヨーロッパ人等。
- (3)攻撃には、自動車への爆発物の装着、自動車や住居の扉への毒物付着、マラケシュ、アガディール、ティズニットのよう観光地での原付自転車からの消音器付き銃の使用等、多様な手法が計画されていた。
- (4)活動資金は、在イラク ISIL 関係者、在UAEモロッコ人、カタールの3経路から流入していた。

3 ナドール付近でのテロ細胞解体

(1) 13日、中央司法捜査局(BCIJ)はナドール近辺セルワン(スペイン飛び地領メリリャ近く)で、ISILの名の下にテロ行為を準備していた6名のジハディストを逮捕した。

(2) このテロ計画はISILに対立する宗教信条を持つ者の暗殺と、近隣の森林での準軍事訓練を含むもの。

(3) オランダ当局もモロッコからの情報に基づいて、このテロ細胞に関わる者としてオランダ在住モロッコ人1名を逮捕した。このモロッコ人1名は、火器と爆発物の入手を試み、オランダ治安部隊を標的としていた。

4 サフィでのジハディスト逮捕

(1) 中央司法捜査局(BCIJ)は、モロッコ系フランス女性と同伴するモロッコ人男性(ヨーロッパ在住歴あり)をISILに加わろうとしていた容疑により逮捕した。

(2) 両人は、ISIL指導者バクダディに忠誠を誓い、モロッコ国内外でのテロ行為を準備していた。

5 ラユーンでのテロ細胞解体

(1) 28日、中央司法捜査局(BCIJ)は南部ラユーン(西サハラ地域)で、「イスラム国」の目的に共鳴するテロ細胞構成員4名を逮捕した。

(2) 内務省によると、これらの構成員は、知人の女性一人を背教のかどで誘拐し焼殺することを認めるファトワ(宗教上の勧告)を発していた。

(3) この細胞のリーダーは「イスラム国」指導層とつながりがあり、高性能爆発物の作製経験があり、モロッコ国内の脆弱な標的に対するテロ攻撃を行うことを意図していた。

< 外交・国際関係 >

6 モハメッド6世国王のサブサハラ諸国歴訪予定発表

モハメッド6世国王は4月中頃から、セネガル、ギニア、コートジボワール、ガボンを訪れる予定であると、Jeune Afrique 誌が報じた。上記4か国は、2月下旬にメズアール外務・協力大臣とブーサイド経済・財政大臣が訪問した4か国と同じ。

(実際の訪問は5月下旬に開始され、訪問先はセネガル、ギニア・ビサウ、コートジボワール、ガボン。)

7 ヴァルス仏首相のモロッコ訪問

(1) 9日、ヴァルス首相がモロッコを訪問し、モハメッド6世国王に謁見、ベンキラン首相と会談した。

(2) これらの会談を通じて両国は共通の戦略的な課題について完全に一致し、両国間関係が

特別なパートナーシップに復帰したことを歓迎した。

(3) 経済・教育・環境等の分野での友好関係強化の他、ヴァルス首相は、モロッコ政府が設立したイスラム教指導者養成機関への評価を示し、イスラム教指導者養成における両国間協力強化を希望する旨述べた。また、両首相は5月末にパリで開催される仏・モロッコ・ハイレベル会合の成功にむけ努力することでも一致した。

8 メズアール外相発国連事務総長宛書簡

(1) メズアール外務・協力大臣は潘基文・国連事務総長宛に西サハラ問題にかかる書簡を發出した。

(2) その直前にAU委員会が国連事務総長宛に發出した書簡に言及し、AUの西サハラ問題への関与に強く反対。チサノ元モザンビーク大統領の、AU西サハラ特使への任命を批判。2015年1月22日のモハメッド6世国王と潘基文事務総長との電話会談により確認された、相互に受け入れ可能な、交渉による政治解決の原則を想起。

9 第3回米・モロッコ戦略対話

(1) 9日、ワシントンで、第3回米・モロッコ戦略対話が行われた(ケリー国務長官とメズアール外務・協力大臣が共同議長)。

(2) 同対話終了後の共同声明で両者は、アフリカの安定・安全・経済成長を確保するため、特に食料安全保障、エネルギー、紛争予防、文化的・宗教的アイデンティティの保存について協力していく意思を確認した。

(3) 治安協力について両者は、グローバルテロ対策フォーラム(GCTF)の枠組みで「開放国境安全」(Open Border Security)イニシアティブに共同で取組むことを確認した。

(4) ケリー国務長官は過激派との闘いにおけるモロッコのリーダーシップを評価し、「モハメッド6世イマーム等指導者養成学院」創設を歓迎した(2015年3月に開設されたイスラム教指導者養成学校で、モロッコだけでなくマリ、ギニア、コートジボワール等、西アフリカ諸国からもイスラム教指導者を受け入れている)。

(5) 西サハラ問題について米国側は、数年来の立場を維持し、モロッコによる自治権付与提案が真剣、現実的かつ信頼できるものであることを明確に述べた。

10 在リビア(トリポリ)モロッコ大使館前での爆発事件

12日から13日にかけての夜間、在リビア韓国大使館が武装グループから襲撃を受けた数時間後に、在リビア・モロッコ大使館入口付近で、袋に隠された爆弾が爆発した。数台の自動車は損傷しただけで、人的被害はなかった。「イスラム国」の共鳴者はツイッター上で、本件が「イスラム国」の犯行であるとしている。

11 サパン仏財務相のモロッコ訪問

(1) 12日から13日、サパン仏財務相がモロッコを訪問し、ブーサイド経済・財政大臣と会談した。両者は両国の中小企業支援を目的とする2件の協力協定に署名した。

(2) 1件目の協力協定は、モロッコ中小企業による仏製品購入または両国中小企業の合同事業を支援するための保証基金の創設に関するもので、支援額は2600万ユーロ。

(3) 2件目の協力協定は、財政再編保証基金への仏による支援額を、中小企業保証基金に移管するもので、中小企業保証基金の規模を拡大し、より多くのモロッコ中小企業が裨益することを可能にする。支援額は1700万ユーロ。

12 セウタ・メリリヤ向け武器の差押え(ロッテルダム)

(1) オランダ・ロッテルダム港で、モロッコ北部のスペイン飛び地領セウタおよびメリリヤ等に向けて積み出される予定であった武器が差し押さえられた。

(2) 欧州刑事警察機構(Europol)と治安・情報機関は連携して、ヨーロッパ系マフィアの複数の構成員が、拳銃や自動小銃等の火器をサルデーニャ島経由でスペイン領セウタとメリリヤ、モロッコ北部やチュニジア向けに積み出そうとしていたところを押収した。これらの火器は、アフリカ北部の各地で複数のテロ細胞に届けられることになっていた。

13 MINURSOの期限延長

(1) 28日、国連安保理は国連西サハラ住民投票監視団(MINURSO)の期限を1年延長する決議2218を採択した。

(2) 決議採択を受けて外務・協力省は声明を発表し、モロッコの自治権付与提案を正当化するとともに、アルジェリアとアフリカ連合の対応を暗に批判した。

<モロッコ要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
4月2日-	コートジボワール	ベンキラン首相、アハヌーシュ農業・海洋漁業大臣	国際農業・動物資源見本市参加、ウワタラ大統領、ダンカン首相と会談
4月8日-	米国	メズアール外務・協力大臣、ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣	第3回米・モ戦略対話
4月11日	コートジボワール	メズアール外務・協力大臣	アビジャン「モハメッド6世」自動車専用道路開通式(ウワタラ大統領主催)出席
4月13-14日	スペイン	メズアール外務・協力大臣	EU および地中海沿岸諸国非公式外相会合

4月15-18日	フランス	タルビ・アラミ衆議院議長、ピアディア参議院議長	仏・モ議会フォーラム
4月15日	チリ	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣	ムニョス外相と会談
4月16日	ベネズエラ	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣	ボリバル外務副大臣と会談
4月19-24日	インドネシア	メズアール外務・協力大臣	アジア・アフリカ会議
4月20日	ポルトガル	ベンキラン首相、エルアラミ商工業・投資大臣、ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣等	カバコ・シルバ大統領表敬、第12回ポルトガル・モロッコ・ハイレベル会合（コエーリョ首相と共同議長）
4月28日	ポルトガル	ハッサド内務大臣	フランス、スペイン、ポルトガル、モロッコ内相会合
4月30日	モーリタニア	ハッサド内務大臣	第5回 AMU 内相会合
4月30日-	米国	マルアン手工芸・社会連帯経済大臣	モロッコ文化紹介行事

< 外国要人のモロッコ訪問 >

日付	国	氏名・肩書き	目的
4月7日	コモロ連合	ボレロ大統領府官房長官（防衛担当）	アルーブ陸軍中将・王国軍総監兼南部方面司令官、ルディ国防管理担当特命大臣と会談
4月8日	フランス	ドゥ・ヴィリエ大将・フランス軍参謀長	アルーブ陸軍中将・王国軍総監兼南部方面司令官、ルディ国防管理担当特命大臣と会談
4月9日	フランス	ヴァルス首相	モハメッド6世国王謁見、ベンキラン首相と会談
4月9日	フランス	ギゲー国民議会外交委員長	タルビ・アラミ衆議院議長と会談
4月12-13日	フランス	サバン経済・財政大臣	ブーサイド経済・財政大臣と会談

4月16日-	EU	アブラモプロス移民・内務・市民権担当欧州委員	ビルー在外モロッコ人・移民問題担当大臣と会談
4月24日	パラグアイ	アフアラ・マシエル副大統領	ベンキラン首相、タルビ・アラミ衆議院議長、ピアデイヤ参議院議長、プーアイダ外務・協力大臣付特命大臣、ラバハ設備・運輸大臣と会談
4月26日-	セネガル	サル大統領	第8回国家農業会議出席、第10回メクネス国際農業見本市参加(特別招待国)
4月27日	スペイン	ガルシア・テヘリナ農業・食糧・環境大臣	第8回国家農業会議出席
4月27-29日	ルクセンブルク	ギヨーム皇太子、ステファニー皇太子妃、シュナイダー副首相兼経済相	ベンキラン首相、エルアラミ商工業・投資大臣、(経済ミッション)

(了)